



心を寄せる（7）

みなさん、次の数字は何を表す数字か考えてみてください。

- 1 5000万人以上
- 2 200万人
- 3 720万人
- 4 46,500人
- 5 2人に1人

答えは、下記のとおりです。

- 1 避難を強いられたこども（うち難民のこどもは1500万人）
- 2 難民として生まれたこども（2018-2023年）
- 3 学校に通っていない難民のこども（全体の約50%。西・中央アフリカ地域では61%）
- 4 保護者の同伴なしに逃れてきたこども（欧州）
- 5 気候変動の危険の極めて高い地域に避難するこどもの割合

これらの数字から、本当に多くのこどもたちが、戦争や迫害、気候変動で苦しんでいることが理解できます。

これらの数字と合わせて、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の発行している広報誌には、2人のこどもの状況が記載されています。

片足の自由を失ってーモハメド君の夢

モハメドくん（15歳）は母国スーダンで家族と共に襲撃され、武装した男たちに銃撃されました。14歳の時でした。母のザカリアさんは彼を背負って7時間歩き続け、なんとかチャドへたどり着きました。しかし、他の2人の弟たちは殺され、救うことはできませんでした。現在、チャドのファルチャナ拡張サイトのシェルターで暮らしているモハメド君。これまで何度か手術を受けましたが、足は動かなくなっていました。それでも、「僕の将来の夢は、自分のような人を助ける医師になること」と語ります。

家を失ったわたしは、学校も失った

サファイアさん（9歳）は、スーダンの紛争で家を追われ、チャドの難民キャンプで避難生活を送っています。2024年8月、大雨で洪水が発生し15日間水がひかず、約13,000人の難民が深刻な被害を受けました。サファイアさんの学校は8つの教室が破壊され、ほとんどの授業が外の木の下で行われています。「今、ひどい状況です。私たちは外の、とても暑い中で座らなければならないのです。勉強になりません」

私たちが住む日本でも、「自分の生活だけで一杯で大変だ」と思っておられる人が多いことでしょう。しかし、世界では戦争や紛争が起きており、その影響を受け、たくさんのこどもたちが苦しんでいるという状況に、目を向けなければいけないのではないのでしょうか。自分が良ければそれでいい、自分の国が良ければそれでいいという考えはいけないと思います。これまでも、センターだよりでは「利他の心」や「惻隱の情」に触れ、人の喜びが自分の喜びにつながるのだということをみなさんに伝えてきました。

ここでぜひ、みなさんも、苦しんでいるこどもたちに寄り添い、何ができるかを家族と共に考えてみませんか。